



Title	「フェルガナにおけるマハッラバイ支援プロジェクトに関する国際会議」開催の報告
Author(s)	樋渡, 雅人; HIWATARI, Masato
Description	国際プロジェクト報告
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 13, 33-35
Issue Date	2024-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/91698
Type	departmental bulletin paper
File Information	REBN_13_033.pdf



<国際プロジェクト報告>

「フェルガナにおけるマハッラバイ支援プロジェクトに関する国際会議」開催の報告

(報告者：樋渡 雅人)

はじめに

2023年10月31日(火)15:00-16:30に、北海道大学大学院経済学研究センター地域経済経営ネットワーク研究センター(以下、REBN)が主催する「フェルガナにおけるマハッラバイ支援プロジェクトに関する国際会議(International Conference on MAHALLABAY Support Project in Fergana)」が、ウズベキスタンの現地とオンラインで繋いだハイブリッド形式により開催された。本イベントは、REBNが実施するJICA草の根技術協力事業「ウズベキスタン共和国・フェルガナ州におけるマハッラバイ政策支援事業」(以下、「マハッラバイ政策支援事業」)に

関連する第1回の国際会議となった。本国際会議は、事業のカウンターパート組織であるウズベキスタンの地域経済支援センター(以下、HIRKM)の他、ウズベク政府の関連諸機関の共催する共同イベントとして開催され、ウズベキスタンの現地から200-300名が参加する大規模な会議となった。以下では、本事業の内容や目的、国際会議の様子について報告する。

フェルガナ州におけるマハッラバイ政策支援事業

「マハッラバイ政策支援事業」は、ウズベキスタン東部のフェルガナ州におけるマハッラバ

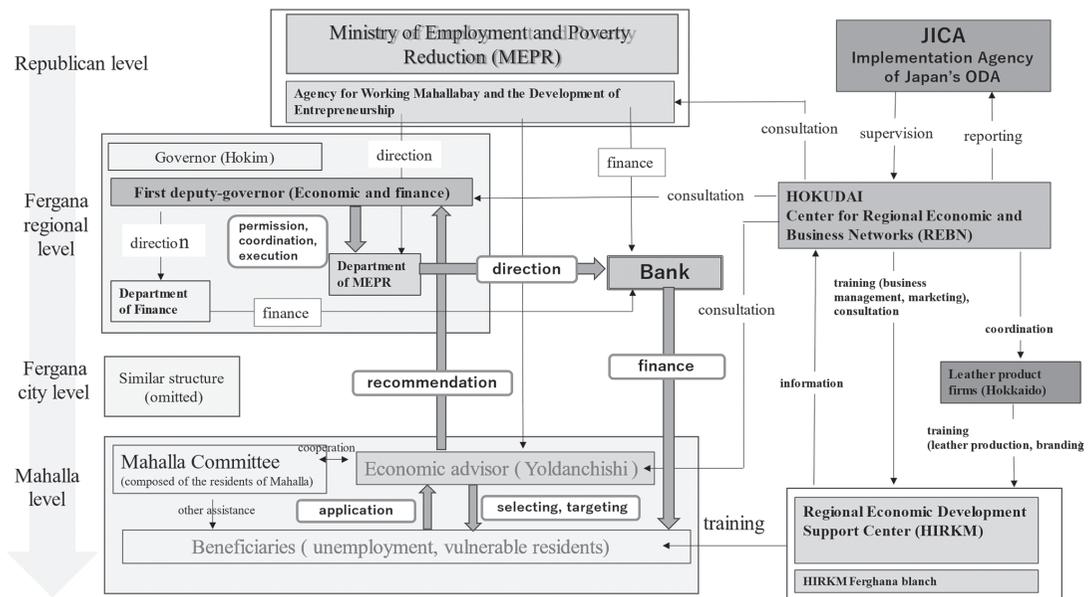


図1 「マハッラバイ政策支援事業」の組織体制図

イ政策を支援する事業として、REBNが主体となり、2023年の10月から開始されたJICA草の根技術協力事業である。実施期間は、2026年9月まで3年間と予定されている。ウズベキスタンにおいては、伝統的な地域共同体である「マハッラ」を行政の末端組織として活用する政策が進められており、近年では、マハッラを軸に小規模なビジネス活動や起業家活動を支援する政策が全国的に展開されている（マハッラバイ政策）。本事業は、これらの政策を技術的に支援するものとして、ウズベキスタンのNGOであるHIRKMをカウンターパートとして、ウズベクの関連機関の協力のもと、REBNがJICAに提案し採択された事業である。

事業開始に伴い、2023年10月23日から11月2日まで、HIRKMの基幹メンバー5名を札幌に招聘し、第1回技術研修を実施した。本国際会議はこの研修期間中に行われたものである。研修では、北海道大学での経営・ビジネス演習や革製品工場・自治体の現場視察を通じて、マーケティングやブランディング戦略、組織運営に関する実践的な知識を深め、今後のプ

ロジェクト活動に反映させることを目的とした。また、道内企業とのネットワーキングや、国際会議を通じたプロジェクトの広報活動も行った。研修期間中、研修員は、本研究院の坂川裕司教授、相原基大准教授、宇田忠司准教授らと事業計画について議論し、道内企業である「ソメスサドル（砂川市）」、「鮑いたがき（赤平町）」、余市町などを視察した。

フェルガナにおけるマハッラバイ支援プロジェクトに関する国際会議

本国際会議は、事業のカウンターパート組織であるHIRKMの他、協力機関であるウズベキスタンの雇用貧困削減省マハッラバイ起業家支援庁、ウズベキスタン共和国大統領直属行政アカデミー、駐日ウズベキスタン共和国大使館との共催のイベントとして開催された。ウズベキスタンにおいては、フェルガナ州、アンディジャン州、ナマンガン州の各マハッラにおけるヨルンダンチシ（マハッラバイ政策のアドバイザー）が区役所に集合し、それぞれの区役所単



図2 国際会議の様子（ZOOM画面の1枚目）

位で ZOOM 接続がなされた。ZOOM への同時接続数は最大で 90 程度であり、各区役所における参加者数を勘案すると全体で 200-300 名程度の参加者となった。

本国際会議では、HIRKM のチェアマンであり本邦研修員として来日中の Bekchanov Davron 氏が司会者となり、前半において、ムクシンクジャ・アブドゥラフモノフ駐日ウズベキスタン共和国大使、三島健史 JICA ウズベキスタン事務所次長を含む各共催機関の代表者からの挨拶があった。後半では、プロジェクトマネージャーである本研究院の樋渡、本邦研修員である Gulomova Nigora 氏 及び Kodirova Sharifakhon 氏からの報告があった。樋渡の報告においては、現状のウズベキスタンにおけるマハッラバイ政策の課題点が提示され、本プロジェクトのコンセプトと内容について説明された。Gulomova Nigora と Kodirova Sharifakhon からは、それぞれプロジェクトのマーケティング戦略とブランディング戦略についての説明があった。プロジェクトメンバーの報告は、北海道研修において得た知見が多く盛り込まれた発表となり、本邦研修の成果報告会としての役割も果たした。

今回の会議は、ウズベク政府関連機関の代表のみならず、フェルガナ州、アンディジャン

州、ナマンガン州のマハッラから、マハッラバイ政策を現場で担当するヨルダンチシが集結する会議となったため、本プロジェクトのコンセプトや内容がフェルガナ渓谷一帯のマハッラに知られたという点で大きな広報効果があった。特に、樋渡の報告において、フェルガナにおいて活動するヨルダンチシに対して、直接に、プロジェクトチームが考える現状の政策の問題点や改善案を提起した意義は大きい。また、Gulomova Nigora と Kodirova Sharifakhon の報告は、本邦研修で得られた知識・成果を現地へ還元する側面も持っていたが、そもそも、マーケティング戦略やブランディング戦略という視点自体が、ヨルダンチシにとっては目新しく興味を引かれたように思われた。質疑応答においては、「今後、同様の活動を他の州に広げてほしい」「プロジェクトに直接に関係のない州のマハッラであっても、同様の活動をすぐに開始したいので今後も情報を共有してほしい」といった声があがり、参加者の高い関心と期待がうかがえた。

本事業は REBN にとって初の国際協力の取り組みであり、その成果が期待されている。次の 3 年間での皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。